

『第4回 東海地区市民活動センタースタッフ交流会』 開催報告

【1. 開催概要】

日 時：2017年 10月 2日（月） 19：00～21：00
 会 場：ウインクあいち 16階 1601 （愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38）
 対 象：東海地区の市町の間支援センターの関係者
 テー マ：【議員が、センターの仕事に役立つ！？かも・・・】
 ～NPOと議員が関わるメリット・デメリット～
 参加者数：17名（運営スタッフ3名+ゲスト1名含む）

〈参加者の所属（五十音順）〉

- ・岩倉市市民活動支援センター（3名）
- ・大府市民活動センター コラビア
- ・刈谷市民ボランティア活動センター
- ・ぎふNPOセンター
- ・岐阜市市民活動交流センター（2名）
- ・多治見市市民活動交流支援センター
- ・半田市市民交流センター
- ・東大手の会
- ・扶桑町住民活動支援センター ぷらねっと扶桑
- ・NPO ゆめはーと
- ・コミュネット江南（運営スタッフ）

【2. プログラム】

時間	内容
19：00	開会、趣旨説明 進行：齋藤雅治さん（コミュネット江南）
19：10	1. 【議員が、センターの仕事に役立つ！？かも・・・】 ～NPOと議員が関わるメリット・デメリット～ 亀山市議会議員 今岡翔平さん
19：40	2. 感想・意見共有
20：00	3. 車座トーク
20：45	閉会、次回アナウンス
20：50 ～	会場片付け→移動→懇親会 会場：つくね屋本舗 名駅店（名古屋市中村区名駅4-4-38 ウインクあいち B1F）

【3. プログラム進行の様子】

1. 【議員が、センターの仕事に役立つ！？かも・・・】

～NPOと議員が関わるメリット・デメリット～

亀山市議会議員 今岡翔平さん

議員は普段何をしているのか、市民活動・市民活動センター（スタッフ）と議員が関わるメリットなどについてお話しいただきました。（今岡さんのお話の内容はP.3）



2. 感想共有

隣の席の人同士、2～3人一組で感想・意見共有。活発な意見交換が行われました。



3. 車座トーク

今岡さんを囲んで意見交換。みなさんに自由にお話をさせていただきました。

議員さんとのつきあい方や情報のストックの仕方を中心に、様々な意見やアドバイスが交わされました。（車座トークの内容はP.4）



【4. アンケート結果】

別紙参照

以上

話題提供「議員が、センターの仕事に役立つ!?かも・・・」

三重県亀山市議会議員 今岡翔平さんのお話：要旨

まずは、意外と知られていない議会とは何か？議員とは何をしているのか？について。

市役所を会社としたら、市長は社長。役所の職員は社員。議会とは、社長や社員が提案する仕事のチェックを行い、承認するのが仕事です。市長や役所の職員の仕事とは、議案、予算、ルール（条例）、人事などです。

だから、議員とは「社外取締役」のようなものといえます。しくみとしては、市長や町長など自治体の長（首長）とそれを承認する議会の議員はそれぞれ選挙で選ばれ、市民の意思を反映することになっています。これを「二元代表制」といいます。議会の一番大きい力は、首長が出した議案を止めることといえます（例：橋下市長の大阪都構想）。ですが実際には、全国の議会で行政や市長が出す議案を止められる議会は1%しかないそうです。

それでは、自分が議員になって普段何をしているのか、ご紹介します。

1. 議会活動：年4回、トータル80日くらい
2. 議員活動：ブログや市政報告レポートを作成・配布、駅前や街頭で報告、あいさつまわり
3. 市民活動（ここが今岡さんの特徴）
 - *ご当地グルメ（みそ焼きうどん本舗）
 - *SASUKE in KAMEYAMA（JCでの活動）
 - *授業でスポーツ鬼ごっこ
 - *カメジョブキッズキャラバン（商工会議所での活動）

では、なぜ自分が市民活動をするようになったのか？についてお話しします。

議員になって実感していること……行政は、全市的で細やかな対応ができにくく、時間もかかる。

例えば、学校の問題に取り組もうと思っても、議員は教育委員会に携われない。しかし、現場の問題は待ってくれない！ そうであるならば、許された時間で市民活動をする方が役に立てることがあるのでは？と考えるようになりました。

そして、市民活動に議員（である自分）が関わることでのメリットもある。例えば、市役所や社協など公的機関から信頼が厚い→議員がついていることで、守ってあげられる人がいる。また、人脈が豊富であり、人手や資材、おカネ、情報が集めやすい、そんなメリットがあります。

そして、今日の会に自分がなぜ呼ばれたのか？ということです。

わがまちを良くしたい！と思って議員として市民活動をしてきた結果、いろんな活動をしている人と知り合い、ストックが増えてきました。いろんな課題に熱心に取り組んでいる方々と出会うのです。そうすると、『問題を解決するのは、必ずしも自分自身だと思わなくてもいい』という思考になります。つまり、あんなことをしている人がいる、こんなことが得意な人がいる、そういうまちのリソースがわかってくる。そうすると、がんばっている人や団体をつなぐことで、役に立つことがあると思っているのです。

このような考え方、活動の在り方って、市民活動センターと似ているのではないかと思います。

ですから、これまで市民活動と議員は接点が少なかったと思いますが、ぜひ、議員を敬遠せず、つながりを持つよう意識してみてください。実は同じような想いで、地域の課題に取り組んでいるかもしれません。特に、市民活動団体が人手や資金を調達する連携先として、商工会議所青年部やJCは有効だと思いますが、そこへのアプローチは、議員のつながりが生きる場合が多いと思われます。市民活動センターは今後、地域の多様な主体との連携が求められると思います。今後のセンターの活動に、議員とのつながりづくりを視野に入れてはいかがでしょうか。

車座トーク

議員さんとのつきあい方

Bさん：

うちは公設民営で指定管理をしているので、特定の地元の議員さんと仲良くなったときに、利害関係とかものすごく気を遣いながらやっています。もう少しこの議員さんと仲良くなりたいたいなと思っても、やっぱり市役所のセクションなんで、そこらへんが難しいところです。

それから、指定管理料をいただいているから、支援センターの活動はどんなことをやっていて、市のためにすごい貢献しているところを議員さんに理解してもらわなければ。逆に言えば上質な活動にするために、そのお金を増やしてもらう必要があるってことを、市にももちろんわかってもらわなくちゃいけないけど、多くは議員さんにわかってもらわないとしょうがないですね。

Eさん：

議案をチェックして議決して通していくのは彼らなので、市長さんも大事だし、議員さんも大事だし、やっぱり両方の理解を得ていくって言うことが大事かな。あんまり議員さんを肉食動物だからと言って、手を噛まれるかもしれないとビクビクしてやっていると相手にもあんまり良い気がしないから、お付き合いする回路みたいなものを作るといいのかなと。

齋藤さん：

元々肌感覚として議員さんを先生扱いしないことを念頭に置いています。活動のところに議員さんが来てくれたら仲よくして、つながりは作って話はして、最近は逆に付き合い方をうまくすれば議員さんと仲良くやって、一緒に汗流してもらいたいのはホントはあるといいかなと思っています。

Hさん：

いい距離感ってどれぐらいのもんなだろう、どこまで仲良くしていいんだらうって考えることはあります。個人的に仲良くするのはいいと思うんですけど、センターの職員が、と思われた時に。

Bさん：

たとえば部屋を借りたいという時に便宜を図っているというように後ろ指を差されなければ、仲よくな

ってしゃべったって別にいいんじゃない？

齋藤さん：

いろんな頼みごとされるから、ちょっとした便宜なら凶ってしまいがちだけど、それをあまりやっちゃうと、その団体に議員がいると、あの議員がいるから便宜が、みたいな話になっちゃう。ちょっとした融通ならいいけど度合い考えないと。

情報のストック

齋藤さん：

議員さんはいっぱい情報を持ってるので、お友達みたいな関係の議員さんが増えて、そういう人と情報をやりとりできるようになったら、もっとセンター運営もやりやすいかとか。お互い WinWin になれたらいいなと。

今岡さん：

市民活動センターのみなさんってすごいいい人でまじめな人たちだもんで、自分がなんとかしてあげないっていうところで、わりと困ってらっしゃるかたっているのかなあ。

齋藤さん：

「いろいろやりたいけどやりきれない」、「スキルが追いつかない」、「どこまで仕事ってやったらいいんだろうか」みたいな悩みがアンケートにあったんで、もしかしたらその解決の一つになるかもしれないと思って（企画しました）。

自分がたくさん持ってて一生懸命出すんだって話じゃなくて、繋がってる人を知ってて、何か相談がきたら知ってる人にどんどん振ってその人連れて来るみたいな。僕は東大手の会の仲間として入れてもらって活動しているので、税金だとか細かい法律だとか絡んできたり、NPO法人の相談がきてわかんないことがあったら、そっちのネットワークにどんどん投げていくんです。そんなやりかたで仕事もうちよっと気が楽になる人がいそうだなと。

スタッフのスキルアップ

Bさん：

うちは何かあった時にどこか紹介ということじゃなくて、一緒に行きましょうっていうことを「同行相談」っていってるんです。

例えば市役所に行きにくいという人がいたら、行ける人がついて行って話を聞いてきて、スタッフのみんなにもその結果を話してもらいます。そういうことをすることによって、スタッフ一人一人のスキルが上がります。例えば税金やNPOの報告書をどういう風にしたらいいかっていうことを若い子たちがついて行って聞いて来ると、その人のスキルが上がる。

今岡さん：

なかなか市民活動センターっていう仕事柄、外に出にくいっていうこともありましたもんね。だからストックを増やすという事がすごく大事な仕事ですよ。思いきって外に出ていただくことが、結局は団体さんを助けるストックにつながり、スキルが上がるっていうことですよ。

もしかするとストックを作ってる期間っていうのはこれが何の役に立つのかっていうのはわからないか

もしれないですね。とりあえず集まっていたものを見返してみたら、おっ使える！みたいな。

Fさん：

今いる職員とか役員の人のつながりっていうのをもう一回洗いだすといいデータベースにすることができるかもしれないですね。

団体登録について

今岡さん：

さっき団体の名簿を登録しているとおっしゃっていましたが、自分が知らない団体さんがあったりしませんか？

Bさん：

うちは登録（申請）が来ると、その時に聞いた人が必ずスタッフミーティングでみんなに説明するんです。本人が確定するんじゃなくてスタッフみんなが確認して、そうするといろんな質問が出るんです。聞いてないと答えられない。その時は登録しないんです。次のミーティングまでにきちっとそれを確認する。登録をしに来た人には来週のスタッフミーティングで検討させていただいて、登録可か不可か返事をしますという。だから全員が新しい団体については理解して、知らんと言う人はいなくなる。

Cさん：

登録する時にはどういう判断基準があるんですか？今見直してる段階なので。

Bさん：

営利（かどうか）とか。お金だけじゃないけど、自分たちのミッションとして何を指すのかっていうのをちゃんと書いてくださいとって質問して、それが上手く書けてないと、これじゃあ登録できませんということになる。これはみんなで話し合っ決めてるんです。だけど市役所からはグレーな団体は登録して下さいと言われてます。そのなかで活動を見ていてどんどん市民活動を巻き込んでもらえばいいと。営業のチラシを配ってたりして、登録抹消させてもらったところはあります。

Cさん：

グレーは切るんじゃなくて、とりあえず登録してあとの活動を見て。

Bさん：

そうです。その人達も市民活動をやらしてもらえそうな団体にしたりとか慰問（の話）が来た時に行きませんか？と声を掛けたりしています。

成果が見える化

Hさん：

毎月情報交換会っていうのをやっていて、登録団体さんが来て下さることが多いんですが、営利の人でも、ネットワークビジネスの人でも、通りすがりの人も参加していいんです。そこで無駄話の中からつながりが生まれてコラボしてみようとか、「集客がうまくいかない」って言ったら誰かが「こうやります」って答えてくれたりします。「ボール余ってます」と言ったら、発達障害の子が野球をするのに困ってるんでって、もらい先が決まったとか。こっちが外向かなくても来てくれるような場所にあるのでいろんな人が来てくれて、そういった場を作るだけでいろんなことが生まれてるので、私たちが解決で

きないことでも集まってきた人同士が強みを活かして解決できるパターンができてます。

Bさん：

そういう事例はセンターの一つの成果だから、まとめて一年間で事例集出すとか、そういうのはやったほうがいい。

今岡さん：

壁にカードかなんか貼っておくだけでも。ありがとうカードボードみたいな感じにして「○○さんありがとう、ボールもらいました」とか。

Bさん：

そうすると、うちにもあるよみたいな話になってくるよね。そういうのは何か見える化した方がいいよね。

Eさん：

ここはそういう相談もしていいんだ、みたいな感じになりますよね。刈谷市さんでだいぶ以前ですけど、『ぼらっちくんのこらぼレポ』っていう協働事例集みたいな冊子で作られていて、ああいうのってすごくいいなって。こういうふうには支援センターは人と人を繋げて課題を解決してますよみたいな、そういう冊子があるんですけど、多分ネットで見られると思います。